

第 4 回 気候変動を踏まえた浸水対策検討部会	
日 時	令和 5 年 11 月 29 日 (水) 15:30~17:00
開 催 場 所	横浜市役所 18 階共用会議室みなと 6, 7
出 席 者	森田部会長、石川専門委員、加藤委員
欠 席 者	—
開 催 形 態	公開
議 題	1 下水道浸水対策プラン (素案) について 2 その他
議 事	<p>開会</p> <p>1 環境創造局 下水道計画調整部長挨拶</p> <p>○小塚下水道計画調整部長 本日はご審議いただき下水道浸水対策プランの素案は、気候変動を踏まえた今後の横浜市の下水道浸水対策を取りまとめたものである。委員の皆様方に 3 回にわたりご審議いただいた目標整備水準や施設整備の考え方など重要な点についてしっかりとプランへ盛り込むとともに、部会の中で頂いた意見を今後示していくものであるため、市民の皆様へのわかりやすさを考慮してまとめ上げていきたい。本日は委員の皆様それぞれの専門分野の視点に加えて、市民の皆様が目線でもプランをご確認いただき、忌憚のないご意見をいただければと思う。</p> <p>2 資料確認</p> <p>○事務局 次第</p> <p style="padding-left: 2em;">資料 1 第 4 回気候変動を踏まえた浸水対策検討部会 説明資料</p> <p style="padding-left: 2em;">資料 2 下水道浸水対策プラン (素案)</p> <p>3 議題</p> <p>議 事 (資料の説明については省略)</p> <p>1 下水道浸水対策プラン (素案) について</p> <p>○事務局 議題 1「第 4 回気候変動を踏まえた浸水対策検討部会 説明資料」を説明。</p> <p>○加藤委員 プランは未完成ということか。今後も庁内で議論してから公表になるということか。</p> <p>○事務局 今後の手続きとしては、庁内での最終的な議論が終わった後に素案が固まり、その後に議会報告や市民の皆様意見を聞く等の手続きを踏んで、原案を作り、最終的に案を取った形で公表していくことを想定している。</p> <p>○加藤委員 プランの目標期間は 20 年か。</p> <p>○事務局 まだ決まっていない。期間を区切るかどうか検討が必要な状況である。</p> <p>○小塚下水道計画調整部長 今、庁内で議論しているところであるが、整備のスピード感による。予算等の今後の考え方を踏まえ検討していきたい。予算の調整等の状況があり現時点では示せない状況である。考え方としては最後に 20 年間の対策地域を出していきたい。</p> <p>○加藤委員 このプランを作るのは横浜市では初めてか。</p>

○事務局 初めてである。

○石川委員 資料2のP4について、最後の1行を付け加えていただいた意図は、地球温暖化の影響で降雨量の変化倍率を1.1倍にしているが今後想定以上に温暖化が進み周りの自治体や国の方針も変わる可能性があるため、その際は時代に合ったものに変えていく、その意図でよろしいか。地球温暖化の影響の変化などがわかる文章がもう少し入った方が、わかりやすいため、表現の仕方を再考していただきたい。

また、庁内で検討中のため出せない部分もあると思うが、考え方や方法を並べているだけで最後の結果がないとよくわからないため、整備優先度の検討結果は必要ではないかと感じている。ぜひプランに入れ込んでいただきたい。

加えて、目標について、「いつまでに・何をするのか」を市民にメッセージとして示すことはとても重要である。このプランの意義そのものに関わってくる問題だと思うので、出せる範囲できちっと出すことがとても大事だと思う。今の段階ではなかなか言えないかもしれないが、そのような内容を盛り込むようにしていただきたい。また、発生対応型に比べ、予測対応型の推進による予算や効果がわかりやすく伝わりやすい。難しいことばかり申し上げているが、長期的なプランで市民に対するPR・メッセージを出すものに対してぜひ検討していただきたい。

○遠藤環境局創造局長 このタイミングで公表することを前提としたボリュームでお示ししているため、内容がこの程度かというのが正直なところだと思う。今までこの部会で示した内容を全部プランとしてまとめて出したいのが本音である。しかし、例えば、たまたま横浜市は最近豪雨が降っていないが、浸水のしやすさではひとたび降ると関心事の多くは浸水対策になる。浸水のしやすさと影響度でリスク評価しているが、それをどのように見せていくかが非常に重要である。浸水想定のみでの評価の場合、郊外部に浸水想定が集中するため、ここを対策していくと思いきや、影響度を重ねると評価は市域全域にばらける。地区の評価なのでランク付けの色分けは地区全体で示しているが、実際に浸水するのは、着色している地区内のポイント的な一部であるため、誤解されないような見せ方を、今まさに議論しているところである。手元にある施設の優先度の考え方だけを示すことも考えられるが、これだけではわかりづらいため、浸水リスクの評価は浸水のしやすさと重点項目をきっちり見せた上で、良い見せ方にしていきたい。加藤委員が言うように、これを公に出すのは初めてであり20年間で数千億の予算が想定されるため、一つの区切りとして部会は今回で最終になるが、これからも進捗の度合いに応じて引き続きご意見をいただきたい。我々はそのような意気込みを持って形にしていきたい。

○加藤委員 この素案の形で本として出るのはか。

○事務局 そのとおりである。

○加藤委員 例えばP.1（浸水対策完了地区）だと対策が未完了の地区がわからない。全体的に写真と比べると絵が多い。雨水貯留浸透施設の絵は、具体的な市内の事例があるなら、それを出してもいいと思う。また、ハザードマップの下に掲載URLを載せるとか、浸透柵なら、補助制度を閲覧できるように、アクセスできるようにする等があればよい。P.4~P.7は空白部分が多いのが気になる。また、計画名はこれでいいのか。

○事務局 計画名はわかりやすい名前をつけるかどうかは今後考えていきたい。

また、構成や図表は手直しが必要だと思う。50、60、100のような表現を雨の強さとして使うが、気象庁が示している傘が役に立たない強さ等の降雨の強さの例などがないと伝わりづらいと思うため、コラムのようなものは入れていきたい。また、内水ハザードマップについては今年度に紹介の動画を作っているため、そのようなPRのようなものを入れていければと考えている。

○部会長 公表できる時期はいつか。

○事務局 現在、内部で議論している中では公表の時期は今年度か次年度になるかわからないが、なるべく今年度中に仕上げられるように進めているところである。なかなか議論の進捗が伴っていないところがあるため、少しずつれていくことも想定される。

○部会長 承知した。委員のメンバーとして議論しているが、この議論の内容を公表してもいいのか。

○事務局 HP上で今回の議論の経過や資料を既に掲載しているため問題ない。

○部会長 承知した。今まで検討した考え方はリスクに対して計画を立てており、その先には必ず予算の投資が出てくる。そこまで市民や市の議員の方々にも理解してもらう必要があるため記載の方法は市民の反応を臆せず頑張っていたきたい。

○事務局 整備目標の降雨量の表記について、今回1時間当たり52、64、82の表記にしている。先ほどの説明の中でも申し上げたが、丸めた数字の50、60、80の方が市民の方たちには耳に入りやすい数字かと思っている。ただ、これまで1.1倍していない従来の目標整備水準を約50mmや約60mmといったような表現で使ってきたことから、今回1.1倍にした変化が伝わるように細かい数字にはなるが52、64、82として変化がわかる形にした。

また、幅を持たせた表記である50～80や52～82は、誤解を招く恐れがあるため、事務局として採用をしなかった。52mmの降雨が市域の約3/4であり、一番広い面積になるため、52mmという表現も考えられるが、3つの目標整備水準を立てるのは自治体の中でも横浜市特有であるため、今回、52、64、82といった形で事務局の方で検討した結果を出した。この辺りで委員皆様からご意見があれば聞かせていただきたい。

○加藤委員 前半から読んできて、唐突にP8で降雨量52、60、80の3つの数字が並んで出てくるため違和感がある。2-1-1になると、各々の根拠の説明が出てくる。これらを目標のところインデックスでもつけて少し説明を入れるとか、52mmと記載しておいて下に○○地区は○○mmを表記する等で工夫するといいかもしれない。目標のところだけをぱっと引き出したときの書き方は、何か別のパターンを用意してもいいかもしれない。

○部会長 素案のP.1に自然排水区域では5年で50mm/hrと記載しているため、ここを読めばわかるかと思う。

○事務局 内部での議論の経過としてP5の2-1目標では結論から記載するスタイルを今回選んだが、若干唐突かもしれないとの議論もあった。2-1の目標のところでは、下水道の浸水対策では、「浸水を防ぐ目標・甚大な被害を防ぐ目標・命を守る目標」の3つを作るから始まり、2-1-1、2-1-2、2-1-3を経て、まとめとして2-1-4に追記するような形で示す方法も内部で議論があった。今回は結論先行のスタイルでお示した

が、別の方法としてはその手順を踏む方法もあると思う。それらを踏まえ、ご助言いただいたようないくつかパターンを作って、わかりやすいものを検討していこうと思う。

○加藤委員 地区名はどのように出すか。

○事務局 例えば、今後 20 年間に 16 点の 252 地区を対象にする場合、浸水対策プラン自体では、5 回の中期経営計画で対策する地区数量を示す程度にとどめよう思う。具体的な対策地区は中期経営計画の策定毎にお示しするものとし、4 年に 1 度に地区名を出していこうと考えている。

○加藤委員 具体的に地区名があるということか。

○事務局 そのとおりであり、6,122 地区すべてに地区名をつけることができる。

○部会長 横浜市がハザードマップを公表したときに、市民あるいは不動産の人たちからのクレームやもめることはあったのか。

○事務局 令和 3 年・4 年に改定した 153mm のハザードマップを全戸配布している。76.5mm のハザードマップを平成 26 年に出していることもあり、ハザードマップの認知度がある程度あったためマイナスなご意見はあまり出てきていない。

どちらかというとそのハザードマップをご覧いただき、「マンションの役員をやっているが、このマップを見るとこういう浸水が想定されるため、マンションの役員を集めてなにか対策ができないかと考えているが、マップでは浸水深のレンジが広いので、もう少し具体的な浸水深を教えてもらえないか」というような問い合わせをいただいている。後ろ向きというより、前向きなご意見が比較的多い印象である。

○部会長 そういうことであれば、局長がおっしゃったように勇気を持って浸水リスクを出していけるのではという感想を持った。

○遠藤環境局創造局長 ここ 20 年ぐらいで自然災害に対するリスクや備え、さらに自助・共助のような話をよく使うようになった。やはり危ないのであれば先にリスクを示すことは、これからの行政では非常に大事だと思う。また、そのリスクをどうやって回避するか、リスクがあるにしても甚大な被害をどうするのかを行政として示すことが多分求められるので勇気をもって臨んでいきたいし、仮にそういうお問い合わせがあったとしても、そこは我々として責任をもって対応していきたい。

○石川委員 ここ数年で、土砂災害だけでなく浸水も不動産取引の際に必ずハザードマップを説明する必要があり認知度も上がってきているので、局長がおっしゃったように、どちらかというで見せない方がリスクだと思う。

市の財源は別の問題として、内水はある程度対策をとれば人的被害や経済被害を防げる部分があると思うので、被害の経済的な損失を考えるとやるべきことをやり、対策効果があることをメッセージとして伝えるべきである。それが文章で少しでも伝わるとよい。

また、P.5（下水道浸水対策における 3 つの目標）について、この表が単独で出ることが多くあると思うので、これを見て市の目標を理解できるように、誤解がないようにした方がいい。そのため、加藤先生がおっしゃったように、従来は 3 種類の整備目標を 1.1 倍していることをわかるように工夫した方がいいと思う。

P.8 の 2-2-1 は、市民の方が見たらこの 3 つの図や文章を見て理解はしづらいと思

う。例えば、施設整備の優先度の図は点数が何なのか。これは縦軸と横軸を掛け算した数字だと思うが、その説明はどこにも記載がないためわかりにくい。また、影響度の評価に関する施設についても、もう少しわかりやすく書いた方がいいと思うが、いかがか。

○**遠藤環境局創造局長** おっしゃる通りである。そもそも重点項目を選んだ理由等を含め、委員の皆様にご理解いただいたからこそこのマトリックスになっているため、極力、そういった説明も含めて、わかりやすいようにしていきたい。

○**加藤委員** 私も P.8（浸水リスクの評価）の図は多分知らない人が見たら難しいという気がしている。このマトリックスのジャストアイデアだが、掛け算の意味が多分わからないと思う。例えば一番右上は地下街でかつ浸水被害が想定される場所か。

○**事務局** そのようなイメージである。

○**加藤委員** 例えば、右上の16点に「地下街のように浸水影響度が高く、かつ浸水している」のような図を加えて記載し、両方の視点でコメントをつけるとわかりやすい。逆に言うと、一番左上はどういうところか。

○**事務局** 駅や人口資産が集中している地区ではあるが、浸水想定が極めて少ないところである。

○**加藤委員** 駅や浸水していない絵を追加すると、イメージが湧きやすい。

○**事務局** その通りだと思う。浸水想定と浸水影響度の軸にイラストを入れるともう少しご理解いただけるのかと思うので、検討させて頂く。

2 その他

○**部会長** 議事の下水道浸水対策プラン（素案）についてはこれで終了となる。その他ご質問あるか。

○**事務局** 事務局からはその他の議事は特になし。

○**加藤委員** 意見ではないがプランのタイトルを期待している。

○**小塚下水道計画調整部長** 多くご意見いただき、こちらも出せるものが少し限られているところで大変申し訳ないが、今後庁内の議論を深めつつ、いただいた議論を踏まえて、まずは修正等で見やすくしたものを今後ご確認させて頂く。

○**石川委員** 多分、文字を大きくしていただいと思うが、これでも結構ギリギリだと思う。市民向けとなると、体裁を含め、市民や地域の方、子供たちが見て理解や勉強になるものになればと思う。

○**部会長** 第4回の検討部会は概ね了承とする。

横浜市浸水対策について、最初はまとめ方に不安ではあったが、やり方としては1.1倍の数字を具体的に決め、浸水想定とリスクを考えた優先地区の選定は極めて順当で合理的なやり方をされたと思った。

さらに皆様からご意見いただいたが、市民の方に見せるという部分で、実は横浜らしいというか、仕事の仕方も本当におしゃれだなと思った。やはり人の命に関わるリスクのある仕事を限られた財源でどのように進めるかはとても難しいことだったと思うので、局長の決意表明があったが、皆さんで応援しながらがんばっていただきたい。

○**事務局** 本日いただいた意見については、素案に反映した後に、皆様にもまたご確認

させていただきたい。

閉会

環境創造局 下水道計画調整部長挨拶

○遠藤環境局創造局長 4回にわたるこの検討部会で3人の委員の方々に議論頂き、ありがとうございました。ここまでまとめたものを公表するにあたり、非常に緊張感も持ちつつ、20年後にはこんないい街になるということをいかに伝えるかということも含め、横浜市のために頑張っていきたい。本日ご提示させていただいた資料等が中途半端な状態で本当に申し訳ないが、なるべく早い段階でいただいた意見を踏まえ、外に出していきたいと思う。そういう意味では、部会は一つの区切りとして本日が締めではあるが、3人の委員の皆様方には引き続き色々なアドバイス、ご意見をいただいて、完成させていきたいと思う。

○事務局 以上で浸水対策検討部会を終了する。

閉会